

2025/11/6

記録担当：信州大学医学部図書館 福澤

第 75 回長野県図書館大会 大学専門図書館部会分科会報告

日 時：令和 7 年 11 月 6 日（木） 10:00～11:30

開催方法：オンライン開催（zoom）

発表者：飯田短期大学図書館 湯澤萌捺美様（事例発表）

参加者：33 名

1. 事例発表

「読書バリアフリーに対する大学図書館の対応と課題～飯田短期大学図書館を例に考察する～」

飯田短期大学図書館湯澤様より読書バリアフリーへの取り組みについて事例発表があった。

2019 年の読書バリアフリー法の施行、2024 年の合理的配慮提供の義務化を受け、障害の種別・有無にかかわらず誰もが読書できる環境の整備に強い関心が寄せられている。障害を持つ学生も増加傾向にあり、大学図書館でも対応が求められている。飯田短期大学図書館では読書バリアフリーアクセシビリティを専門とする同大教員への取材を行った。さらに、利用者の要望を調査するため学生へのアンケートを実施した。本発表ではそれらの結果に加え、実際に行った掲示物の改善等の事例が共有された。

また、誰にでも利用しやすい図書館にするために図書館を利用しない学生へのアプローチも大切であるという視点も示された。

2. 質疑応答（回答者：飯田短期大学図書館）

- ・ 図書館を利用しない学生からも回答を得られるアンケート手法について（信州大学中央図書館）
 - 学内システムで全学生へのアンケートを配信した。また、学生への通知やクラスミーティング内でのアンケート回答について教員に協力を依頼した。
- ・ 図書館運営に教員はどのように関わっているのか（長野工業高等専門学校）
 - 館長が介護福祉を専門とする教員であり、さらにほかの読書バリアフリーに詳しい教員とも連携して対応している。

3. 大学専門図書館部会会員館からの報告

大学専門図書館部会会員館のうち当番館4館を除く14館がそれぞれ自館の読書バリアフリーへの取り組みや、近況について報告した。

- ・ リーディングトラッカーなどを設置している図書館はあるが、電子書籍やタブレット端末などを含めた既存の設備をもっと活用できるよう検討したいと発言する図書館が多かった。また、掲示物や発表資料においても視認性についてより配慮し、紹介のあったピクトグラム等を利用して作成したいという発言もあった。
- ・ 電子書籍の導入が各館で進んでいるが、購読にあたって読み上げの可否も考えるようしたいとの意見があった。
- ・ コロナ禍を経て利用者数が激減しており、飯田短期大学図書館を参考にしたアンケートなどで対応を検討したいという図書館もあった。

4. 令和8年度長野県図書館大会大学専門図書館部会分科会について

- ・ 発表館・助言館：松本看護大学・松本短期大学図書館、信州大学農学部図書館
- ・ 企画館・記録館：飯田短期大学図書館、信州大学工学部図書館